資料　５

国民の海への親しみ、理解の向上について

目　　次

１．概要
- 海事思想普及の必要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

２．国民の海への親しみ、理解の現状
- 海に関する国民意識調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 出前講座でのアンケート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

３．これまでの主な取り組み状況
- 国土交通省 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 海事広報協会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 日本船主協会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 内航海運組合総連合会、全日本海員組合、地方船員対策協議会 ・・・ 7

４．問題点・背景・論点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

海事思想普及の必要性

国土交通省

四面を海に囲まれた日本は、資源に乏しく国民生活に必要なエネルギーや食料等は外国からの輸入に頼らざるを得なく、**その輸送の99.7%が外航船**により、また、**国内輸送においても約4割が内航船**により運ばれており、**安定的な海上輸送の確保は、我が国の経済と国民生活を支える極めて重要**となっている。

しかしながら、その**活動の場が港や洋上**であることから、**国民の目に触れる機会が乏しく**、これほど**重要な産業であるにもかかわらず、海運（海事産業）の重要性が理解されていない**のが現状である。

一方、**東日本大震災の際の津波被害**は、未だ国民の記憶に新しく、**海への恐怖心**が完全に払拭されずに**海への親近感が薄れたままになっている傾向**にある。

◎海事思想普及の必要性

※海事思想：海の利用、海上交通、海洋環境、海上安全等、海に関する知識全般

①海事産業の成長には、人々の**海事産業（海運・造船等）に対する深い理解と関心が必要**
②若年層の海洋に関する関心が年々低下している状況から、特に海事産業の次世代を担う**青少年の海への関心を高めること**が必要（後継者の確保・育成）
③海洋観光分野の発展には、人々の**海への安心感、親近感を高めることが必要**

動く海洋教室での天測実習体験（青雲丸）

硯海丸船長とのインターネット回線通信
（大阪市昭和中学）

海王丸とエムイーエス由良造船
W見学会（和歌山県由良中学）

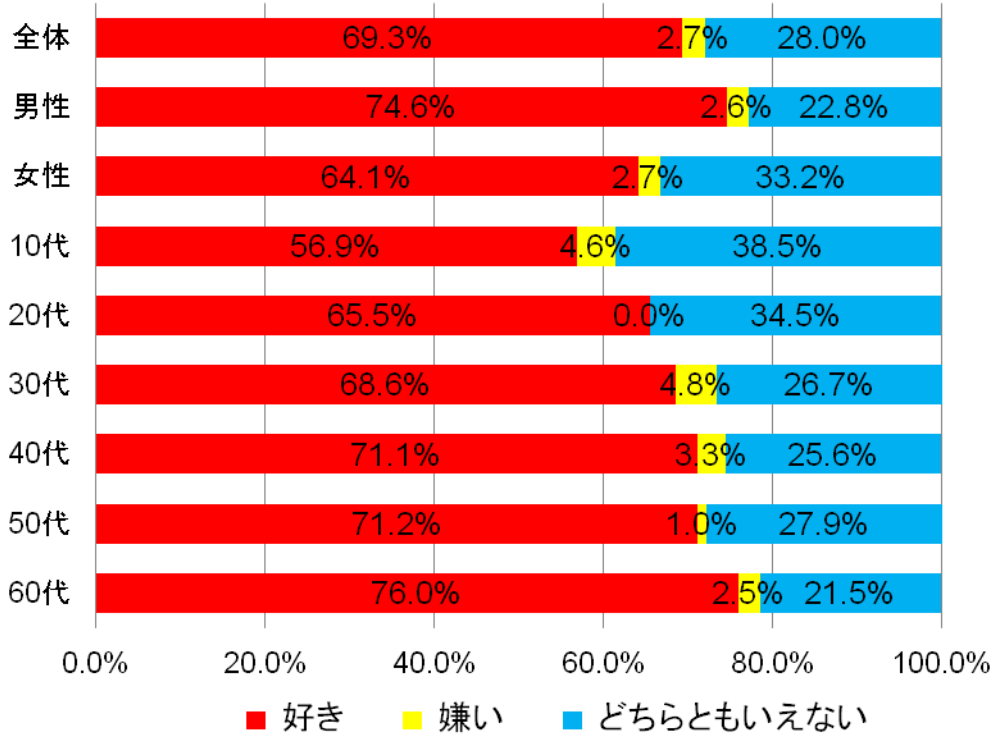
海に関する国民意識調査（（公財）日本海事センター）

国土交通省

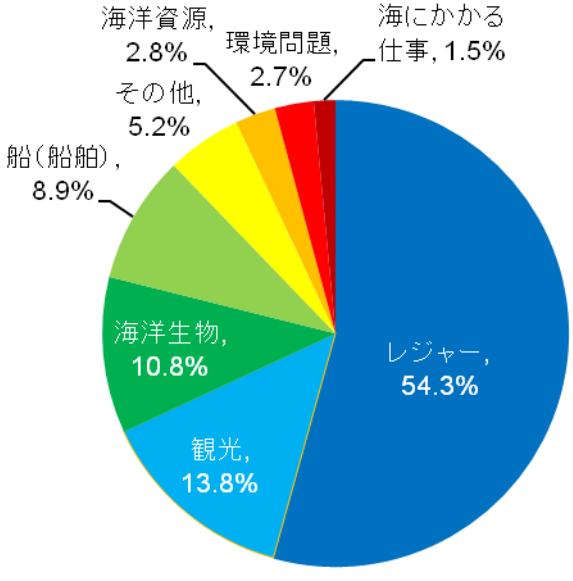
〇海に対する好感度は**若い世代ほど低い傾向**がある。

〇国民の**「海」の捉え方がレジャー・観光に偏って**おり、**海運の重要性**については、**十分に理解されていない**。

〇海は好きですか

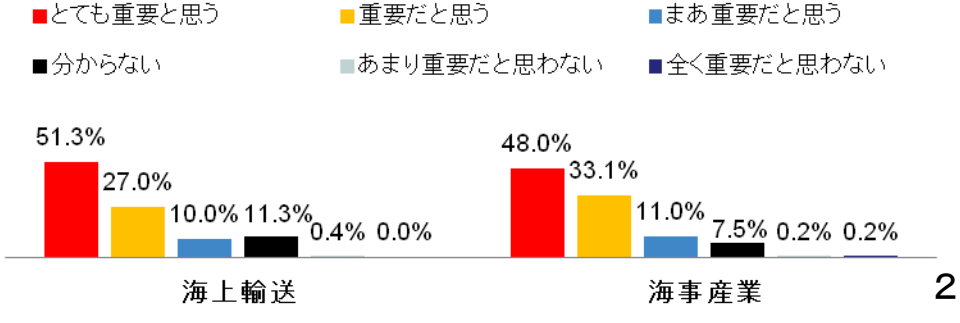


〇日常生活の中で「海」と聞いて思い浮かべることは何か



スキューバダイビングやクルーズへの関心の高まりが影響か？

〇日本にとって、「海運（海上輸送）」と「海事産業」はどの程度重要だと思いますか。



●海が好きな理由→
「落ち着く／癒される／心が和む等」

●嫌いな理由→
「危険／海は怖い／津波が怖い／震災の影響」

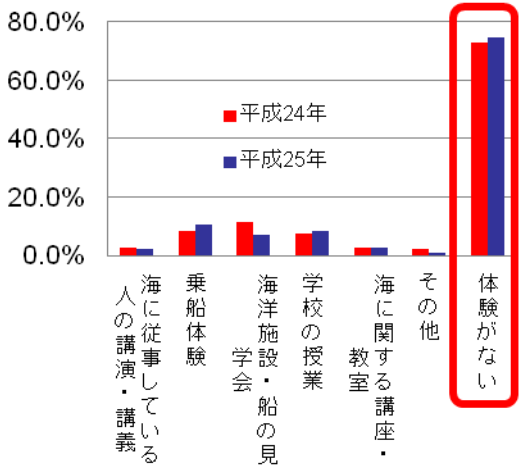
出前講座でのアンケート（近畿内航船員対策協議会）

国土交通省

〇中学生の**海事に関する教育の現状や理解度を図る**。
〇今後の**学校教育の場において、海や船に興味を抱くような環境作りを構築**する。

学校での海事教育

〇体験したことのある海事教育

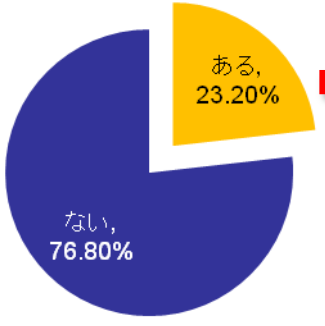


海事教育の体験がない
H24･･･72.8%
H25･･･74.8%

内航海運の仕事について、分かりやすく漫画で紹介しているパンフレット等の手軽さが、興味をもたれている。

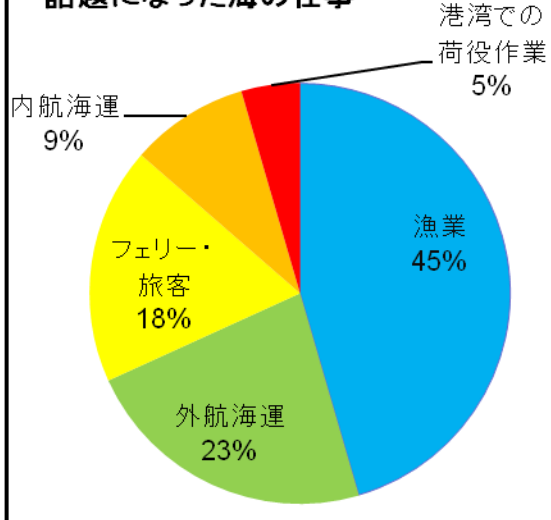
海に関わる仕事について

〇授業で海に関わる仕事について話題されることがあるか？



あると回答した人の内容

話題になった海の仕事



海に関する行事への参加

〇海や船に関する行事、イベントなどの実施状況

実施あり････30．4%
実施なし････69．6%

実施したことがある内容

●校外学習：カヌー、カッター体験
●修学旅行：カヌー、ラフティング

これまでの主な取り組み状況（国土交通省）～海事全般～

国土交通省

○海フェスタの開催：**海に親しむ環境づくり**を進めることを目的として実施

○海洋立国推進功労者表彰：国民が**海洋に関する理解を深める契機**とすることを目的として実施

○日本海洋少年団の活性化：将来の**海洋国家日本を支える人材を育成**するため、団員の数を **「２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックまでに会員１万人」を目標**として全国的に活性化策を実施

○その他にも、**海洋観光や海事産業の次世代の人材確保育成に向けた取り組み**を実施

海フェスタ

平成26年の「海フェスタ」は京都舞鶴市を中心とした5市2町で開催

海洋立国推進功労者表彰

科学技術、水産、海事、環境など海洋に関する幅広い分野における普及啓発、学術・研究、産業振興等において顕著な功績を挙げた個人・団体を毎年、海の日周辺において表彰している。

海洋少年団

上：港区海洋少年団結団式

下：舞鶴海洋少年団入団式

その他

霞ヶ関子供デー

上：海と船フェア

海洋写真コンテスト：右

これまでの主な取り組み状況（（公社）日本海事広報協会）～海事全般～

国土交通省

○**全国中学生海の絵画コンクール**：絵画作品を描くことによって**海や船に対する関心を喚起させる**ことを目的として実施。

○**ジュニア・シッピング・ジャーナリスト賞**：海事産業に係る取材・調査を行い、新聞形式にまとまった作品を募集し、新聞の作成を通じて**海や船への関心を高める**ために実施。

○**青少年の海の教室**：船舶・海洋博物館・水族館・港湾などの海事関係施設の見学会や船舶を利用した海洋沿岸の乗船ウォッチングなどを**青少年が海事産業や海洋について認識を深めてもらう**ために全国で実施。

○**海事産業に関する副教材**：**「海運」「船」「港」の重要性を盛り込んだ副教材を**港湾都市の社会科教師らの協力のもとに**作成し授業に活用**。

全国中学生海の絵画コンクール

第50回全国中学生海の絵画コンクール金賞受賞作品

国土交通省が後援する絵画コンクール「我ら海の子展」及び「全国中学生海の絵画コンクール」の国土交通大臣賞を大臣から授与

ジュニア・シッピング・ジャーナリスト賞

青少年の海の教室

全国11地区にある海事広報協会で、海洋環境の保全についての正しい認識や海に対する関心を高めるために実施。

副教材の作成

平成23年・24年は広島県呉市、平成25年・26年は岡山県倉敷市において副教材を用いた授業を実施。

これまでの主な取り組み状況（(一社)日本船主協会）～外航海運～

国土交通省

○小学校教師向け広報活動（施設見学・勉強会）

多くの**小学校教師が海運業界に関心**を持ってもらい、**学校授業の中で海運の役割について児童と一緒に認識**していただくことを期待して下記のイベント全国で実施している。

- **出前講座**（「船員の職場環境」「海運の現況」）
- **施設見学**（コンテナターミナル等）
- **体験乗船**

コンテナターミナルの視察

船員から海賊問題を説明

○ホームページの拡充・広報資料の作成・配布

幅広い年齢層へ向けたHP

子供向けパンフレット
「船ってサイコー」

○外航海運セミナー

※SEA　JAPANにて開催された外航セミナー

大人から子供向けの海運PRに

- 最新のプレスリリース
- 海賊レポート等の発信
- オピニオン(「せんきょう巻頭言」)の掲載
- 子供向けのキッズコーナー　等

外航海運セミナー

国民向けに**外航海運業の概要や役割、重要性**とともに、**業界を取り巻く課題等**を分かりやすく説明し、理解をいただくことを目的として実施。

これまでの主な取り組み状況

国土交通省

内航海運組合総連合会

～内航海運～

●広報資料の作成・配布

内航海運の一般への広報活動や、内航船員求人活動のためのDVDビデオ、各種ポスター、リーフレット等広報資材の制作及び配布。

●地域内航船員対策協議会への助成

出前講座や体験乗船会、水産高校生インターンシップ等内航船員確保育成事業への助成。

全日本海員組合

～外航海運～

●J-CREWプロジェクト

船員の魅力を中心に船・船員に関する様々な情報を若者に積極的に伝えることを通して、外航日本人船員の人材確保を支援。

●広報資料の作成・配布

旬刊紙「船員新聞」、月刊誌「海員」等の定期刊行紙を発行

地方船員対策協議会

～内航海運～

●出前講座（主に中高生）

●体験乗船・動く海洋教室（主に中学生）

●ジョブカフェ（35歳未満社会人）

問題点・背景・論点

国土交通省

問題点

1. 国民の「海」の捉え方がレジャーに偏っており、海運・船舶・船員の重要性については、十分に理解されていない

2. 船に乗る機会や船員の仕事ぶりを見る機会が飛行機や鉄道に比べて圧倒的に少ない。
また、学校で学習する機会も少ないため船や海運への認識が低い

3. 海事思想の普及活動（海事広報）を複数の主体が、それぞれターゲットを絞り実施しているが、重複する部分もあることから、より効果的に発信できる可能性があるのではないか

背景

国をはじめ自治体や関係団体等は、それぞれ「海に対する国民の理解の増進」に取り組んでいるが、国民意識調査や出前講座のアンケートを見る限り、この点で目立った成果は見られない

論点

四面を海に囲まれ、資源に乏しい我が国の生命線ともいえる海運（海事産業）の現状及び重要性を理解してもらい、また、国民が海に親しむ機会を増やし、レジャーやクルーズ等の海洋観光分野を発展させるための、効果的な海事思想の普及活動（海事広報）とは何か？